

## 1 単元名 「食べるものを見直そう ～昆虫食の偏見をなくそう～」

### 2 単元の目標

(知識及び技能)

スーパーマーケットで売られている食料品の輸入品をまとめたり、食卓に並べられるご飯の自給率を食材ごとに調べたりする。輸入品の数や輸入先までの距離をデータ化することができる。

(思考力・判断力・表現力等)

輸入率と輸入先までの距離をグラフでまとめ、何が問題なのかを想像し、考察することができる。また、問題から要因を思考し、解決策を見出すことができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

調べものをネットや本から得るのではなく、スーパーなどの現地に赴き、自分事として捉え積極的に行動することができる。解決策について逆算して計画的に行動に移すことができる。

### 3 単元について

#### (1) 教材観

本単元では、「昆虫食カフェの経営者への取材」「地域の人々との出会い」「昆虫食をテーマにした啓発資料づくり」を教材として取り上げる。

城西高等学校に関わりのある生産者や食品関連事業者、環境問題に詳しい方から話を聞き、昆虫食の意義や可能性について学ぶことで、食の多様性や持続可能な社会づくりへの関心を高めることができる。また、児童自身が「未来の食文化を支える一員」として、地域の人々に昆虫食を紹介するリーフレットを作成・配布するなどの活動を通して、食文化や環境問題の実態を理解し、これからの活動に具体性をもたせることが期待できる。さらに、地域や他国の方々とのコミュニケーションを通して、食をめぐる価値観の違いに気づき、他者の考えを尊重しながら自分の意見を伝える力を育むこともできる。

近年、地球温暖化や人口増加に伴う食料問題が深刻化していることを取り上げる。この課題を通して、児童は「なぜ昆虫食が注目されているのか」という問いに主体的に向き合い、栄養面・環境面・文化面など多角的に調べようとするようになる。得た知識をもとに、地域の食習慣や人々の関心に合わせた提案を行ったり、昆虫食の利点を分かりやすく伝えるパンフレットや動画などの表現物を作成したり、昆虫食の体験会を開いたりすることでより相手を意識した発信する力を育むことができる。

#### (2) 生徒観

本学年の生徒は、これまでの学習や学校行事、地域連携活動などを通して、社会課題への関心を高め、課題の発見から解決に向けた探究的な学びの基礎を培ってきている。特に、昨年度には地域の企業や自治体と連携したプロジェクト学習に取り組み、身近な問題に対して自らの意見を形成し、他者と協働して表現する力を身に付けてきた。また、学年やグループを越えて活動する中で、互いの考えを尊重し合いながら、多様な価値観に基づく判断や対話を行う姿も見られるようになってきている。

このように、社会的視野が広がり、主体的に課題を設定し、論理的に考えを深められるようになったこの時期に、「昆虫食を通して持続可能な未来を探究する」という課題に取り組む意義は大きい。昆虫食という新たな食文化の可能性に触れることは、食料問題や環境問題といった地球規模の課題を自分ごととして捉える契機となる。また、科学的・文化的・倫理的な観点を横断的に扱うことで、知識を統合的に活用しながら、自分の価値観や将来の生き方を見つめ直す学びへとつなげることができる。さらに、グループ討議や地域への発信活動を通して、他者の考えを受け止めつつ自分の立場を明確に表現する力を育てることが期待できる。このような学びを積み重ねることで、生徒一人一人が、変化する社会の中で自ら考え、行動し、持続可能な社会の担い手として成長して

いくことを目指す。

### (3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、世界および日本の人口推移や食料自給率の変化を示した統計資料を提示する。このことを通して、今後、世界的な人口増加や気候変動の影響によって食料需給の不均衡が拡大し、従来の食資源だけでは人類の需要を満たすことが難しくなる可能性に気付かせたい。その資料をもとに、「持続可能な食のあり方」や「未来の食文化」をテーマに意見を交わし、課題意識を形成させる。また、昨年度の先輩が取り組んだ探究活動や地域連携プロジェクトの事例を紹介し、探究に向かう意欲を高める。

次に、環境問題や食料政策の専門家、昆虫食関連の研究者・企業担当者をゲストスピーカーとして招き、昆虫食が注目される社会的・科学的背景や、世界各国での導入事例を学ばせる。これらの知見をもとに、生徒一人一人を「サステナブル・フード・アンバサダー」として位置付け、主体的に情報を収集・分析し、発信する責任感をもたせる。また、昆虫食をテーマとしたパンフレットやプレゼン資料を作成し、地域住民や他学年の生徒に向けて発表する活動を行う。その際には、デザインや言葉遣い、データの信頼性など、科学的根拠と社会的受容の両面から表現方法を検討させ、説得力のある発信を目指させる。

さらに、近年の気候変動や食料危機を報じた国内外の新聞記事や国際機関の報告書を取り上げ、「自分たちの生活と世界の課題がどのように結びついているのか」を考えさせる。その上で、昆虫食を実際に取り入れた企業や地域の実践者を訪問し、生産現場の工夫や社会的課題を取材するなど、フィールドワークを行う機会を設ける。学びを深める過程で、倫理的・文化的側面にも目を向け、「何を食べるか」という個人の選択と社会全体の持続可能性との関係について多面的に考察させたい。

最後に、これまでの学びを振り返り、「自分たちの世代が持続可能な社会を築くために何ができるか」をテーマに討議を行う。その成果をもとに、ポスターセッションや地域への発信会を実施し、社会との接点を通して学びの成果を共有する。これらの経験を通して、生徒は単に昆虫食の是非を論じることとどまらず、科学的知見、社会的責任、文化的感受性を統合的に活用し、持続可能な未来を構想する力を養うことができる。

### (4) ESD との関連

#### ・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

連携性…環境の保全と食文化の維持とでどうバランスをとっていくのかを考え続ける。

そのことの大切さ。

責任性…日ごろの生活を見直すことで、地球の環境保全を自分事として捉えることができる。

#### ・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

多面的・総合的に考える力

フードマイレージのことだけを考えるのではなく、昆虫食と美味しい食の側面の

どちらもみて、片方が悪いとではなく今後どうしたらいいかを模索する

他者と協力する態度

食への理解は固定概念を覆すことから始める。そのためには相手への伝え方が大事。

進んで参加する態度

自らの考えは表にでて初めて意味を成すことを理解させる。

#### ・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

現時点で周りに影響を及ぼすのは難しくても、実施した事実が未来への投資につながる。目

に見える「やりがい」がなくても、従事する勇気や心からの献身。

バランス感

一つの問題意識をもつと、逆説的に何か一つ以上の問題が生じる可能性があることを知り、多角的に問題解決を模索するバランス感。

・達成が期待される SDG s

12. つくる責任・つかう責任 15. 緑の豊かさを守ろう 17. パートナリーシップで目標を達成しよう

#### 4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>①自給率を調べるとともに、フードマイレージの観点を視野に輸入先までの距離を知識として理解している。</p> <p>②学んだり、調べたりして獲得した知識を、言葉や図、絵などを用いてそれらに関係づけながらまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>①資料をもとに課題を見だし、環境保全へ向けた解決策を考えている。</p> <p>②文化と環境保全の折り合いを考え、未来の食卓を想像と創造し、拡大方法を模索している。</p>	<p>①新たな食文化の創出という目的意識をもち、意欲的に生産者と消費者と関わろうとしている。</p> <p>②ネットや本の情報ではなく、現地にて実態を意欲的につかみ、自分にできることを模索しようとしている。</p> <p>③昆虫食の体験会やリーフレット作成など生産者に納得してもらえるように発信しようとしている。</p>

#### 5 単元の指導計画（全16時間）

学習活動	学習への支援	評価・備考
<p><b>1. 世界と日本の人口推移・食料生産量のグラフをもとに、未来の食料問題を考える。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口は増えているのに、食料生産は追いつかない。</li> <li>・畜産は環境負荷が大きいと聞いた。</li> <li>・自分たちの食生活はこのままで大丈夫なのかな。</li> </ul>	<p>○ネットだけでなく、図書館に行くように促す。図書館に行って食についての幅広い知識の習得を心がける。</p>	<p>ア①② (知識技能) ウ② (主体的)</p>
<p><b>2. 昆虫食が注目されている理由を知る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たんぱく質が豊富で、飼育に必要な水や餌が少ない。</li> <li>・すでに世界では20億人以上が食べている。</li> <li>・「抵抗感」はあるけれど、考え方を変えるきっかけになりそうだ。</li> </ul>	<p>○発表をすることで、より知識の習得に努めさせる。現状を知ることによって感情が変化したところを課題にする。</p>	<p>イ① ② (主体的)  ウ② (主体的)</p>
<p><b>3. 専門家や企業の話聞く。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養価・生産コスト・安全性など、科学的な裏付けがある。</li> <li>・日本でもお菓子やプロテインバーなどに使われている。</li> <li>・自分が思っていた「昆虫食のイメージ」とかなり違っていた。</li> </ul>	<p>○昆虫食への理解を深めるために、実際に市販されている昆虫食品の調査や試食体験（アレルギーなどに配慮した形で）を行うことを提案する。食品ラベルや企業の広報資料を分析させ、昆虫食に対する印象の変化を意識化させるようにする。</p>	<p>ア①② (知・技) イ①② (思判表) ウ② (主体的)</p>

<p><b>4. 昆虫食に関するポスターやリーフレットを作成する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「食の未来アンバサダー」として、地域や学校に発信してみよう。</li> <li>・デザインを工夫して、思わず手に取ってもらえるようにしよう。</li> <li>・「食べる勇気」より、「知る勇気」を伝えたい。</li> </ul>	<p>○調査・体験で得た知見をもとに、昆虫食の普及を促すポスターやプレゼン資料を制作させる。その際、相手（一般市民や若者など）に伝わりやすい表現・構成を考えさせるようにする</p>	<p>ア②(知・技) イ①②(思判表) ウ①③(主体的)</p>
<p><b>5. 「食の多様性」と「文化的受容」について考える。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昆虫を食べる国もあれば、食べない国もある。</li> <li>・自分の価値観を押しつけず、他者の文化を尊重することが大切だ。</li> <li>・食を通じて、世界のつながりを考えられるようになった。</li> </ul>	<p>○完成した資料を学校や学内留学生に発表・意見交換を行う機会をもたせる。この活動を通して、自分たちの考えを広げたり、よりよい提案に発展させたりできるようにする。</p>	<p>ア②(知・技) イ②(思判表) ウ①(主体的)</p>
<p><b>6. 「未来の食文化体験会」を開催する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理科・地理・家庭科の知識を活かして、科学的根拠をもとにまとめよう。</li> <li>・「昆虫食×環境」「昆虫食×健康」「昆虫食×経済」など、テーマを分担して調べよう。</li> <li>・消費者に新しい価値観を創出しよう。</li> </ul>	<p>○情報の提供から五感に訴えかける体験へと変化させる。このとき、得た情報を体現させるには様々な知識が必要であることに気付かせる。</p>	<p>ア②(知・技) イ②(思判表) ウ①③(主体的)</p>
<p><b>7. 活動の振り返りをする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は抵抗があったけれど、今は「選択肢の一つ」として見られるようになった。</li> <li>・情報を整理して伝えるのは難しかったけど、やりがいがあった。</li> <li>・食を通じて社会の課題を考えることが、自分たちにもできる「探究」だと思った。</li> </ul>	<p>○学習全体を振り返り、「昆虫食」というテーマを通して、自分たちが社会の課題解決にどう関わることができるかを考えさせるようにする。次の探究活動や進路意識の形成にもつながるように支援する。</p>	<p>イ②(知・技) ウ①(主体的)</p>